



紹介者

川原 浩

アサヒグループ食品  
取締役社長

石井 智康

石井食品  
取締役社長



## 育児とマネジメント

男性の育休や育児参加が話題に出ることが多くなりました。会社経営においては、どのようにこれを進めていくのか悩ましくもあります。私は現在3歳の娘を育てておりますが、育児から自身のマネジメントのあり方を学ぶことが多々あります。

まず、子どもは不確実性の塊です。計画を立てても、ちっとも思い通りには進みません。朝ごはんを食べてほしいのに、パズルで遊び始めたり、来ていく服選びにずっと悩んでいたり、急いでいるときに限って、おむつを濡らしてしまったり、今日は保育園には行かないと主張したり。怒ったところで、先に進みませんし、泣きわめいてさらに遅れます。全部コントロールして、自主性のない子になっても困ります。

基本は忍耐。私はこれを「育児修行」と呼んでいます。終わりや区切りがなく、基本つらいが、気付くと自分自身が鍛えられている感じがします。

日々起こるハプニングに対処し、先回りしながら危険を回避し、できたことを褒め、失敗をフォローし…。常に大変ですが、諦めるわけにもいかず、でもふとしたときに喜びがもたらされる(子どもの笑顔とか寝顔とか)。

あれ、これって会社経営にも通ずるなと思うのです。市役所から配られる育児アドバイスなんて、部下とのコミュニケーションにそのまま応用できます。

- ・子どもの話に相づちを打つ
- ・親の方からも話し掛ける
- ・会話を先回りしない
- ・言葉を考えているときは待つあげる
- ・いろいろな体験をさせる
- ・なんでも話せる環境づくりを

いかがでしょう？

そういう意味では、男性育休の推進は、「育児修行」の参加者が増えることでもあり、女性の育休後の活躍も促進され、組織全体のマネジメント力が上がっていくのではないかと密かに期待しております。

▶▶ 次回リレートーク

遠藤 直紀

ビービット  
代表取締役